

キラリ★ 話題の「ひと」



たつお
栗原辰男さん
(浅沼町)

○プロフィール

佐野市観光ボランティアガイド協会
会長
天命鑄物伝承保存会事務局兼会計
栃木県シルバー大学41期佐野連絡会
副代表

観光ボランティアガイド

学

生の頃から、歴史が好きで名所旧跡の史跡巡りを趣味としていた栗原さんは、鑄物師の友人の影響で天明(命)鑄物に興味を持ったことをきっかけに、観光ボランティアガイド協会の講座を受講しました。その後、同協会の会員になり、現在は会長として会員をまとめています。

この協会は、平成21年発足、現在32人の会員登録があります。同協会の趣旨には「おもてなしの心で広く観光客や市民に対し、ふるさと佐野の自然や歴史、文化などの案内と説明を行い、佐野市への理解と愛着を深めてもらうとともに、会員相互の親睦と資質向上に努める」とあります。

栗原さんがガイドをする際には、案内する皆さんに佐野の良さをよりよく知っていただくために3点ほど、必ず説明するように心掛けているものがあるそうです。
①唐沢山②天明鑄物③田中正造
これらはガイドする上で欠くことのできないつながりがあるからと話してくれました。



▲観光ボランティアの仲間とともに(中央後ろが栗原さん)

さて、天明鑄物は、千年以上昔から作られていたといわれています。現在は生産用具の一部が「県指定有形民俗文化財」となっていますが、今後は「国指定重要有形民俗文化財」となることを目指し、天明鑄物伝承保存会の皆さんと共に力を入れていきます。

観光ボランティア協会の今後としましては、会員のモチベーションを高めつつ、全員が基本のガイドラインを共有しながら、最良のガイドができるようにしたいとのこと。そのためにも、定例会に力を入れ、協会としての資質向上に、より一層努めたいと熱意を語ってくださいました。

ぜひ皆さんも、一度ボランティアガイドの方に案内していただき、改めて佐野市の良さに触れてみてはいかがでしょうか。

(市民記者 葛貫郁子)

市長からの

メッセージ

先月、栃木県もまん延防止等重点措置の適用地域に指定され、本市を含む23市町が「重点措置区域」に指定されました。従来のウィルスから変異株の「デルタ株」への置き換わりが急速に進んでおり、本市でも一日の感染者がこれまでの最多を記録するなど、感染増加が続いています。そのため皆さんには、夏休み期間中、お盆を目前にした時期に、生活に必要な場合を除き外出の中止や感染予防の徹底、そして発熱などがあつたときには医療機関への早期受診などをお願いする新聞折り込みを配布しました。

市民の皆さんには度重なる我慢をお願いしておりますが、皆様のご協力に感謝しております。9月に入ってもまだまだ予断を許さない状況が続くことが予想されますが、今が正念場です。市民の皆さんがご自身はもちろん家族など大切な人の「命と健康を守る」ために引き続きのご協力をよろしくお願ひします。

本市のワクチン接種状況ですが、予定通り実施されており、9月1日(水)からは50歳から54歳までの方を対象とした予約受付を開始しています。集団接種会場も浅沼町のイオンタウン2階に2カ所設置しました。ワクチンの確保につきましては、引き続き県や国に対し強く要望してまいります。

ワクチン接種は、佐野市医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生方を中心に地元医療従事者の皆さまのご協力により行っていますが、その他に本市出身の医療従事者の方々にも集団接種に従事していただいています。佐野市のため、故郷の家族、友人を思い、ご協力いただいている皆さんにも感謝申し上げます。今後も「オール佐野」体制で積極的に感染拡大防止に努めてまいります。

(8月10日 記)

金子 裕

今回の表紙 「ひまわり迷路」 令和3年8月11日撮影

植下町の佐野観光農園アグリタウンにて、ひまわり迷路が実施されました。背丈よりも高いひまわりが辺り一面を埋め尽くすさまは圧巻です。





水難救助合同訓練が実施されました

7

月16日(金)渡良瀬川流域で管轄が隣接する佐野市消防本部・足利市消防本部・館林地区消防組合消防本部が、水難事故を想定して合同訓練を実施しました。

訓練は、渡良瀬川のおうちらとうしゅうこう 邑楽頭首工上流部にて学生がボートの練習をしていたところ、上流のゲリラ豪雨の影響で河川が増水しボートが転覆したという想定 of 通報を受けて開始されました。

館林市側に指揮本部を設置し、救助活動範囲が広範囲に及ぶとともに、要救助者が複数いることから近隣の佐野市と足利市の消防本部へ応援を要請し、訓練が実施されました。

合同訓練は、水難救助技術の向上と近隣消防本部との連携を図り、実災害において安全管理が徹底された組織的で円滑な活動体制を構築していくことを目的としています。

近年、台風やゲリラ豪雨による河川が増水など、自然災害による被害が増えています。

市消防では日々、災害などに備え訓練を行っていますが、市民の皆さん一人一人が防災の意識をもち、自身を守るように努めましょう。



「竹やぶでシッチクダケを見たこターネーケ？うちのオジヤン(祖父)が、シッチクダケをツエンボにシテーってユーンで、メツケテルンだけど、なかなかメツカンなくってさあ」

(市民記者 森下喜一)

年を取って歩行が困難になると、からだを支えるツエンボ(杖)が必要になります。ツエンボには軽くて持ちやすい竹を用いました。その竹とは、節と節の間が異常にせまくて、タンコブツ(こぶ)のようなかたまりがいくつもある奇妙な真竹まだけです。このような竹を方言でシッチクダケといいます。タンコブツは、竹の根元の部分にあります。

2本のタケンボ(竹竿たけざお)に横木(台)を結びつけ、そこに足をのせて立つと背丈が高くなります。子どもたちはそのような誇らしげにあちこち歩き回りました。これを共通語では竹馬たけうまとか、たかあしなどといいます。方言ではユキアシダゆきあしだといいますが、雪の上を歩く高い歯のついた下駄したという意味です。子どもの遊びに「タケンマアスビ」もあります。タケンポー(竹の棒)の枝4本を1センチほどの長さに切り、馬の足にしたのがタケンマです。タケンマの胴体に小石をしばりつけて、引っ張り回して遊びます。

竹は、昔から建築・工芸・楽器などを作る材料として貴重なものでした。家庭用品としても、籠かご、笊しゆ、タカボキ(竹の枝で作った箒)などがあります。竹製の飾り物などもあります。そこで竹にまつわる方言について述べてみましょう。

佐野弁
ばんでい

竹にまつわる方言のいろいろ
シッチクダケは老人が歩行用の
ツエンボ(杖)として用いた

